

授業名： 理学療法概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	羽川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 “理学療法”や“理学療法士”についての理解を深め、チーム医療を行う際 の他職種との理解を深める					【受講して得られる力】 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法を多角的に理解することを目的とする ② ③						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	リハビリテーションと理学療法		リハビリテーション医療・福祉の世界で理学療法の役割について理解できる 理学療法と作業療法の役割の違いについて説明が出来る			
2	理学療法・作業療法士法		理学・作業療法士法を理解し業務上の留意点を理解する 理学療法の業務を理解し予測される問題点と法律の関係を説明できる			
3	運動療法の歴史		我が国における理学療法の歴史を理解する 我が国における理学療法の変遷について説明が出来る			
4	理学療法の実際(物理療法)		患者の訴え(主訴)に合わせた物理療法が説明できる 実際に機械の操作が出来る			
5	理学療法の実際		上肢に対するPNF 上肢に対するPNFの2パターンを行うことができる			
6	理学療法の実際		下肢に対するPNF 下肢に対するPNFを実際に行うことができる			
7	理学療法の実際		体幹に対するPNF 体幹に対するPNFを実際に行うことができる			
8	理学療法の実際		IDストレッチングに関して説明ができる 上肢のIDストレッチングを実際に行うことができる			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	レポート試験		評価方法	レポート	100%	0%
					0%	0%
【教科書】PNFマニュアル改訂第3版(南江堂)						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 言語療法概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
中村くみ子		一般	吉田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)
				【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 言語障害、高次脳機能障害、聴覚障害、摂食嚥下障害などの臨床症状を理解し、言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ。また「コミュニケーション」についてより理解し、OT場面への応用を学ぶ。					【受講して得られる力】 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識		
【学習目標(到達目標)】 ①「言語」の持つ身体・生理学的特徴、個体発達上の特徴、心理・精神的、対人関係・社会的特徴を知る。 ②言語障害の多様性を知る。 ③治療的介入についての概要を学ぶ。							
【履修上の注意】 講義には演習もありますので積極的に参加するようにしてください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	言語聴覚療法総論		言語聴覚療法概論 言語聴覚士の歴史、定義、職務、対象障害、連携				
2	失語症		失語症について 症状、評価、訓練				
3	高次脳機能障害		高次脳機能障害について 失行、失認、記憶障害、注意障害、認知症など				
4	構音障害		構音障害について 運動性・機能的・器質性の症状、評価、訓練				
5	その他のコミュニケーション障害		音声障害、喉頭摘出、吃音について 症状、評価、訓練、AAC、意志伝達装置など				
6	言語発達障害		言語発達障害について 症状、評価、訓練				
7	聴覚障害		聴覚障害について 症状、評価、訓練、補聴器・人工内耳				
8	摂食・嚥下障害		摂食・嚥下障害について 症状、評価、訓練、チームアプローチ、実習				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	0%
【教科書】 随時、資料配布							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義の際に伝えます。							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 医療英会話

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
ロバート・ホルト	英会話講師 14年勤務	田中	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 The syllabus is designed to give students exposure to medical English. Lessons will focus on a topic that will allow students to practise English as either a doctor or a patient.					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験		
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class. English will be presented in a number of ways, i.e. reading, listening etc, and students will be expected							
【履修上の注意】		Homework as and when set. Students will need a dictionary in class.					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	Chapter 1 Polio	Discussing health state with hospital receptionist.					
2	Chapter 2 Prescription	Reading comprehension – Prescription. Common vocabulary. Talking to the doctor.					
3	Chapter 3 Hay Fever	Reading comprehension – Hay Fever, allergy. Common vocabulary. Common doctor questions.					
4	Chapter 4 Diarrhoea	Reading comp. – Anti-Diarrheal/Anti-gas. Common vocab. Describing ailment.					
5	Chapter 5 Sleeping problems	Reading comp. – Sleep problems. Common vocabulary. Talking about causes of sleep problems / stress.					
6	Chapter 6 SARS	Reading comp. – SARS. Common vocab. Describing treatment.					
7	Chapter 7 Diabetes	Reading comp. – Diabetes. Common vocab. Confirming information.					
8	Chapter 8 Arterial Diseases	Reading comp. – Arterial Diseases. Common vocab. Everyday medical conversation.					
9	Chapter 9 Health Insurance	Reading comp. – Health Insurance in the US. Common vocab. Giving advice.					
10	Chapter 10 Food allergies	Reading comprehension – Food allergies. Common vocab. Showing concern.					
11	Chapter 11 Carpal Tunnel Syndrome	Reading comp. – Carpal Tunnel Syndrome. Common vocab. Asking follow up questions.					
12	Chapter 12 Sports Injuries	Reading comp. – Sports related injuries. Common vocab. Describing pain; pain scales.					
13	Chapter 13 The Change of Life	Reading comp. – The change of life. Common vocab. Everyday conversation.					
14	Chapter 14 Vitamin D	Reading comp. – Vitamin D. Common vocab. Everyday medical conversation.					
15	Chapter 15 Flu Shots	Reading comp. – Flu Shots. Common vocab. Everyday medical conversation.					
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%		0%	
				0%		0%	
【教科書】English For Medicine – T. Nishihara, M. Nishihara and A Martin.							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】毎回授業開始時の小テスト準備のための学習							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: レクリエーション(選択必修)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
薄井俊介	一般	薄井	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 作業療法の幅広い対象領域・対象者に対して、レクリエーションは有効な治療手段であることを理解し、計画・実践能力を身に付ける。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①レクリエーションの持つ治療的意義を理解する。 ②対象領域・対象者に適切なレクリエーションを提供できる。 ③						
【履修上の注意】 グループ活動には積極的に参加すること。対象者への接遇に配慮すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	治療的レクリエーションとは		治療的レクリエーションの基本的な考え方を学び、「楽しみ」や「集団」について理解する。			
2	レクリエーションの範囲と対象		対象者や集団の違いによるレクリエーションの意義を学び、その特徴に応じたレク立案から実践までの流れについて理解する。			
3	レクリエーションの実践①		教員が計画・立案したレクを実践し、そのレクリエーションが持つ意義について考察する。			
4	レクリエーションの実践②		教員が計画・立案したレクを実践し、そのレクリエーションが持つ意義について考察する。			
5	レクリエーション計画の実際①		グループ編成を行い、身体機能の維持・向上を目的とするレクリエーションを計画・立案する。			
6	レクリエーション計画の実際②		計画したレクリエーションの模擬練習を行い、対象者に適したものになっているか、目的に沿った活動になっているか見直しを図る。			
7	レクリエーションの実践③		グループで企画したレクリエーションを実践する。			
8	レクリエーションの実践④		グループで企画したレクリエーションを実践する。			
9	レクリエーションの振り返り①		グループで実践したレクリエーションを振り返り、修正すべき点、改善すべき点を考え、計画の見直しを行う。			
10	レクリエーション計画の実際③		身体機能だけでなく、「楽しみ」「認知機能」を考慮したレクリエーションを計画・立案する。			
11	レクリエーション計画の実際④		計画したレクリエーションの模擬練習を行い、対象者に適したものになっているか、目的に沿った活動になっているか見直しを図る。			
12	レクリエーションの実践⑤		グループで企画したレクリエーションを実践する。			
13	レクリエーションの実践⑥		グループで企画したレクリエーションを実践する。			
14	レクリエーションの振り返り②		グループで実践したレクリエーションを振り返り、修正すべき点、改善すべき点を考え、計画の見直しを行う。			
15	レクリエーションの振り返り③		見直した計画に沿ってレクリエーションを実施し、振り返りの結果が反映されているかを確認する。			
期末試験			評価方法	課題の達成度	100%	0%
					0%	0%
【教科書】特に定めない						
【参考書】特に定めない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 身体・精神機能の知識を整理して、計画に反映させること。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	(木曜日以外)

授業名： 障害者スポーツ(選択必修)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
羽川 孝幸		一般	羽川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 障がい者スポーツはさまざまな種目があり、生涯スポーツから競技スポーツまで存在する。スポーツを通じたノーマライゼーションや障害者の社会参加について考えていく。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①障がい者スポーツの知識とその必要性について理解する。 ②スポーツをリハビリテーションの観点から「治療的意味」について理解する。 ③スポーツをQOLの観点から「楽しみとしての意味」について理解する。					前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験		
【履修上の注意】		リハ職の障がい者スポーツにおけるプロボノは社会貢献上重要なため、指導者取得を推奨する。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	障がい者スポーツの意義と理念	障害者スポーツの意義、その効果について理解する。					
2	障害者福祉施策と障がい者スポーツ	障害者福祉施策の体系と、障害者スポーツとの関連について学習する。					
3	障がい者スポーツ大会の概要 障がい者スポーツ指導員制度	全国で開催される大会、およびパラリンピックなどの内容と目的について知る。 日本障がい者スポーツ協会、公認スポーツ指導者の制度と役割を理解する。					
4	ボランティア論と安全管理	ボランティア精神について、意見交換をしながら理解を深める。 実施する際に求められる安全管理の項目と内容について理解する。					
5	障害の理解とスポーツ 1	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する。					
6	障害の理解とスポーツ 2	障がい者スポーツの種目と障害に応じた配慮について理解する。					
7	障がい者スポーツ計画 1	障がい者スポーツの計画について理解する。					
8	障がい者スポーツ計画 2	障がい者スポーツの計画について理解する。					
9	障がい者スポーツ体験 1	障がい者スポーツの実施と体験をする。					
10	障がい者スポーツ体験 2	障がい者スポーツの実施と体験をする。					
11	障がい者スポーツ支援体験 1	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。					
12	障がい者スポーツ支援体験 2	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。					
13	障がい者スポーツ支援体験 3	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。					
14	障がい者スポーツ支援体験 4	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。					
15	障がい者スポーツ支援体験 5	障がい者スポーツの支援の実施と交流をする。					
期末 試験		評価方法	実習評価	50%		0%	
			課題の達成度	50%		0%	
【教科書】なし							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】				教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
吉田 久美	病院 13年勤務	吉田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・火 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2	
【授業の概要】 作業療法評価計画・実施・結果の解釈・治療計画立案に向け、疾患や障害に応じた評価計画・治療・計画立案ができるようになります。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 創造的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①疾患・障害に応じた評価計画の立案ができる。 ②評価結果の統合と解釈ができ、論理的に説明できる。 ③疾患・障害、その人の作業文脈を取り入れた治療計画の立案ができる。							
【履修上の注意】 本講義はactive learnig方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するため積極性が重要です。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	臨床における評価の意義		臨床における作業療法の意義と解釈の仕方の概略が理解できる。 ICF(国際生活機能分類)について理解できる。				
2	作業療法評価:情報収集		作業療法に必要な情報の種類とその入手手段について理解できる。 得られた情報についての解釈過程を理解できる。				
3	作業療法評価:情報収集		作業療法に必要な情報の種類とその入手手段について理解できる。 得られた情報についての解釈過程を理解できる。				
4	作業療法評価:観察演習		観察評価の要点を確認し、実際の事例を観察し解釈を行います。身体障害の事例と精神障害の事例についてポイントの違いを理解する。				
5	作業療法評価:観察演習		観察評価の要点を確認し、実際の事例を観察し解釈を行います。身体障害の事例と精神障害の事例についてポイントの違いを理解する。				
6	作業療法評価:面接		作業療法評価における面接の形態・方法・意義が理解できる。面接した内容の記録および解釈ができる。				
7	作業療法評価:面接 演習		事例を想定した面接演習を行い、面接実施に必要な技術を身につける。				
8	評価計画立案		評価計画を立案する意義が理解できる。評価計画に至る思考過程や具体的な内容が理解できる。				
9	評価計画立案		評価計画を立案する意義が理解できる。評価計画に至る思考過程や具体的な内容が理解できる。				
10	評価計画立案:事例①		事例を通して作業療法評価結果を解釈できる。				
11	評価計画立案:事例②		事例を通して解釈した結果を考察できる。				
12	評価計画立案:事例③		作業療法評価で得られたデータについて統合と解釈ができる。				
13	統合と解釈の仕方		作業療法評価で得られたデータの取捨選択、作業を土台とした焦点化について理解できる。				
14	記録作成の意義		記録作成の意義や要点について理解できる。SOAP形式の記録方法を理解し自己修正できるようになる。				
15	治療計画立案		作業療法評価に基づくプログラムの立案を学びプログラム実施に必要な内容を具体的に計画できる。				
期末試験			評価方法	課題の達成度	30%	レポート	60%
				受講態度	10%		
【教科書】特に指定しません。							
【参考書】講義時に随時紹介します。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 評価計画立案や疾患・障害の基礎項目の確認など毎回レポート課題があります							
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて				

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
吉田 久美	病院 13年勤務	吉田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期月・2 後期水・3	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 作業療法評価計画・実施・結果の解釈・治療計画立案に向け、疾患や障害に応じた評価計画・治療・計画立案ができるようになります。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①疾患・障害に応じた評価計画の立案ができる。 ②評価結果の統合と解釈ができ、論理的に説明できる。 ③疾患・障害、その人の作業文脈を取り入れた治療計画の立案ができる。						
【履修上の注意】		本講義はactive learnig方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するため積極性が重要です。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	治療計画立案演習:脳血管障害①	脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。				
2	治療計画立案演習:脳血管障害②	脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。				
3	治療計画立案演習:脳血管障害③	脳血管障害事例についてMTDLPを用いた焦点化および治療計画立案ができる。				
4	治療計画立案演習:脳血管障害④	脳血管障害事例の治療計画についてグループごとに報告を実施する。ディスカッションを受けて計画の修正や内容の理解を深める。				
5	治療計画立案演習:担当事例①	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。				
6	治療計画立案演習:担当事例②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。				
7	治療計画立案演習:報告会	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPおよび治療計画を発表、共有、ディスカッションすることで理解を深めることができる。				
8	治療計画立案演習:担当事例③	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。				
9	治療計画立案演習:担当事例④	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPを用いた要点の整理、焦点化、基本的プログラム立案ができる。				
10	治療計画立案演習:報告会	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPおよび治療計画を発表、共有、ディスカッションすることで理解を深めることができる。				
11	評価計画立案演習:脊髄損傷①	脊髄損傷事例について事例に沿った評価計画を立案することができる。				
12	評価計画立案演習:脊髄損傷②	脊髄損傷事例について評価結果を基にMTDLPでの要点整理、焦点化、統合と解釈ができる。				
13	評価計画立案演習:脊髄損傷③	脊髄損傷事例について基本的プログラムおよび応用的プログラム立案ができる。				
14	評価計画立案演習:脊髄損傷④	脊髄損傷事例について立案した基本的プログラムおよび応用的プログラムを共有し修正できる。				
15	臨床作業療法のまとめ	臨床で作業療法を実践するうえで重要な要素を振り返り再確認する。よりよい臨床実践のために必要な取り組みについて理解できる。				
期末試験		評価方法	課題の達成度	30%	レポート	60%
			受講態度	10%		
【教科書】特に指定しません。						
【参考書】講義時に随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】治療計画立案や治療報告のパワーポイント作成など毎回レポート課題があります。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名: リハビリテーション工学演習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
作業療法学科教員	一般	羽川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 3・4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 作業療法士は研究という手法を通して、臨床実践を効率的に改善していく責任がある。そこで本講義では研究の骨組み、研究手法、データの解析等を学び、実際に研究を実践し理解を深める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①定量を何によって「はかるか」、定性をどう「まとめるか」について理解する。 ②リハビリテーションにおける定量的解析と定性的解析の意義について理解する。 ③科学における統計量の扱い方を身につける。					考え抜く力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力		
【履修上の注意】 将来を担う作業療法士は研究能力が重要であり、理解を深める努力をすること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	量的研究、質的研究、研究の基本について理解する。 必要な統計学の基本的な考え方と手法について理解する。					
2	グループワーク 1	グループ分け: 先行文献レビューとリサーチクエスト グループワークのアウトライン(テーマ, 研究方法)を決定する。					
3	グループワーク 2	先行文献レビュー テーマに関係する内容のわかっていることとわからないことを理解する。					
4	グループワーク 3	先行文献レビュー テーマに関係する内容のわかっていることとわからないことを理解する。					
5	グループワーク 4	先行文献レビュー テーマに関係する内容のわかっていることとわからないことを理解する。					
6	グループワーク 5	研究デザインと予備実験 詳細な研究計画の作成と、場合に応じて予備実験を行う。					
7	グループワーク 6	研究デザインと予備実験(調査) 詳細な研究計画の作成と、場合に応じて予備実験を行う。					
8	グループワーク 7	研究デザインと予備実験(調査) 詳細な研究計画の作成と、場合に応じて予備実験を行う。					
9	グループワーク 8	本実験(調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を行う。					
10	グループワーク 9	本実験(調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を行う。					
11	グループワーク 10	本実験(調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を行う。					
12	グループワーク 11	データの解析 統計処理及び、データの集計を行う。					
13	グループワーク 12	考察と発表会の準備 データ解析結果から考察を行うとともに、発表会用のプレゼン資料を作成する。					
14	グループワーク 13	考察と発表会の準備 データ解析結果から考察を行うとともに、発表会用のプレゼン資料を作成する。					
15	発表会	結果の発表と討論 グループワークの結果を発表し、その内容に対して質疑応答を行う。					
期末試験		評価方法	発表会の結果	50%		0%	
			受講態度	50%		0%	
【教科書】研究の育て方 医学書院							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各指導教員と確認すること							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
羽川 孝幸 ¹⁾ 、吉田 久美 ²⁾		羽川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院7年勤務 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	前期・金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について整理する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを理解する。 ②精神科作業療法の評価と実践について理解する。 ③関連する精神科リハビリテーションについて理解する。						
【履修上の注意】 学習目標を達成するための自主学習に取り組むこと						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	統合失調症の理解と作業療法 1 羽川	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。				
2	統合失調症の理解と作業療法 2 羽川	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。				
3	統合失調症の理解と作業療法 3 羽川	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する。				
4	評価の視点と解釈 1 羽川	対象者らしい生活を踏まえた評価の解釈について理解する。 臨床実践の根拠を明確にすることの重要性を理解する。				
5	評価の視点と解釈 2 羽川	対象者らしい生活を踏まえた評価の解釈について理解する。 臨床実践の根拠を明確にすることの重要性を理解する。				
6	作業と環境を治療に用いる 吉田	疾患の特性と病期に合わせた作業と環境のアセスメントについて理解する。				
7	プログラムの考え方 吉田	観察、面接、検査などの評価に応じた作業療法プログラムの組み立て方について理解する。				
8	パラレル作業療法 吉田	パラレルな作業療法の特徴と効果について理解する。 パラレルな作業療法での意図したかかわりについて理解する。				
9	集団作業活動 羽川	集団作業活動の特徴と効果について理解する。 集団作業活動での意図したかかわりについて理解する。				
10	認知リハビリテーション(NEAR、MCT、SCIT) 羽川	神経認知の訓練を行うNEAR、メタ認知の訓練を行うMCT、社会的認知の訓練を行うSCITについて理解する。				
11	認知行動療法 吉田	認知行動療法について、代表的なうつ病の認知療法とコラム法、そしてSSTから理解する。				
12	生活技能訓練(SST)演習 吉田	社会学習理論について理解し、社会生活技能に介入する。 SSTについて理解する。				
13	心理教育と家族心理教育 羽川	教育モデルによる心理教育の現状について理解する。 EBPとNBPをつなぐ技術について考察する。				
14	元気回復行動プランとピアカウンセリング 羽川	セルフコントロール・セルフヘルプとして代表的なWRAPと、当事者によるピアカウンセリングについて理解する。				
15	べてるの家と当事者研究 羽川	ソーシャルキャピタルの視点から、べてるの家というコミュニティと当事者研究という手法を理解する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】精神障害と作業療法(三輪書店)／生活を支援する精神障害作業療法 第2版						
【参考書】図説 精神科リハビリテーション／はじめての認知療法／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
羽川 孝幸 ¹⁾ 、吉田 久美 ²⁾		羽川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院7年勤務 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	後期・木 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について整理する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを理解する。 ②精神科作業療法の評価と実践について理解する。 ③関連する精神科リハビリテーションについて理解する。						
【履修上の注意】 学習目標を達成するための自主学習に取り組むこと						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	気分障害の理解と作業療法 1 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
2	気分障害の理解と作業療法 2 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。 リワークデイケアについて理解する。				
3	神経症性障害の理解と作業療法 1 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
4	神経症性障害の理解と作業療法 2 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
5	パーソナリティ障害の理解と作業療法 1 吉田	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
6	パーソナリティ障害の理解と作業療法 2 吉田	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
7	てんかんの理解と作業療法 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
8	知的障害の理解と作業療法 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
9	摂食障害の理解と作業療法 吉田	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
10	依存性疾患の理解と作業療法 羽川	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する。				
11	入院医療の作業療法 吉田	入院医療における対象者の現状と作業療法を理解する。				
12	地域医療の作業療法 羽川	地域医療における対象者の現状と作業療法を理解する。				
13	精神科作業療法における実際 (事例検討:入院)	精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する。				
14	精神科作業療法における実際 (事例検討:地域)	精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する。				
15	精神科作業療法における実際 (まとめ)	精神科作業療法介入の入院から地域支援における役割およびライフステージに応じた介入について理解する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】精神障害と作業療法(三輪書店)／生活を支援する精神障害作業療法 第2版						
【参考書】図説 精神科リハビリテーション／はじめての認知療法／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 義肢・装具学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
高野 真一	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 切断等の身体外傷についての知識を身につけ、義肢・装具・補装具等のハード面の知識及び、各疾患ごとの補装具について学習を進める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①切断者に関する障害像、生活を理解する。 ②義肢・装具・補装具について特性を理解する。 ③各疾患における義肢・装具の種類や役割について理解する。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	義肢装具学ガイダンス		切断者・義肢使用者に対するOTの理念と役割について理解する。 Keyword:				
2	義肢総論		切断に関する基礎知識を理解する。 Keyword: 切断の原因・分類, 義手の種類				
3	義手の基本構造, 分類, 部品		各種義手の特性, 切断部位別の部品の選定について理解する。 Keyword: 切断部位の選択, 構造, ハーネス, ソケット, 継手, 手先具				
4	能動義手と筋電義手		能動義手, 筋電義手について理解を深める。 Keyword: 構造, 部品の選択, 力源				
5	切断者・義手の評価		各種評価について理解する。 Keyword: 生活・参加などの評価, 適合判定(チェックアウト)				
6	義肢の支給制度		公的支給制度について理解する。 Keyword: 補装具の定義, 社会福祉関連, 社会保険関連				
7	切断者に対する作業療法		義手使用者に対する作業療法, 義手訓練について理解する。 Keyword: 装着前訓練, 訓練用義手(処方, 作製), 義手操作訓練				
8	切断者に対する評価		身体状況, 背景を含んだ評価について理解する。 Keyword: 生活行為向上マネジメント				
9	下肢切断, 義足		下肢切断に関する基礎知識を理解する。 Keyword: 切断の原因・分類, 各種義足の特徴				
10	事例学習①		グループワーク サマリー作成手順に沿って, 事例情報を整理できる。				
11	事例学習②		グループワーク サマリー作成手順に沿って, 評価の列挙と記録の整理ができる。				
12	事例学習③		グループワーク レジュメ作成手順に沿って, プログラム立案と設定ができる。				
13	上肢装具作製実習①		対象者に合わせたスプリントを作成する。 Keyword: デッサン, モデリング, 成形				
14	上肢装具作製実習②		対象者に合わせたスプリントを作成する。 Keyword: トリミング, リモデリング				
15	科目のまとめ		前期の学習内容のまとめ, 統合を行う。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	60%	受講態度	20%
				課題の達成度	20%		0%
【教科書】義肢装具と作業療法(医歯薬出版)							
【参考書】作業療法全書 義肢装具学(協同医書出版社), イエロー・ノート専門編(メジカルビュー社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布, 予習課題も提示する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名： 老年期作業療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
吉田 久美 ¹⁾ ・佐々木 貴義 ²⁾		吉田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
1)病院13年勤務 2)病院19年勤務			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
老年期作業療法における特徴と、実践のための知識および技術を身につけることができる。				考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①老年期における作業療法の特徴を理解できる。						
②老年期作業療法展開に必要な理論および技術を習得できる。						
③その人らしい生活を援助する評価プロセスを実践できる。						
【履修上の注意】		理論から実践まで幅広く取り組みますので能動的に学ぶようにしてください。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	老年期作業療法の背景 吉田	老年期作業療法の根拠となる高齢者社会の実情や課題を説明できる。 老年期作業療法に必要な社会制度の理解を深めることができる。				
2	老年期作業療法の対象 吉田	老年期作業療法の対象となる高齢者について課題や特徴を説明することができる。リスク管理の要点および対処を説明することができる。				
3	老年期作業療法概論 吉田	老年期における作業療法の果たす役割について理解できる。 その人らしさを尊重した作業療法実践について説明ができる。				
4	老年期作業療法各論① 吉田	病期に応じた治療・援助について理解を深め、役割を認識した上で事例に必要なアセスメントを立案することができる。				
5	老年期作業療法各論② 吉田	実施場所に応じた治療・援助について理解を深め、実施場所に応じた作業療法実践について説明ができる。				
6	老年期作業療法各論③ 吉田	認知症を対象とする作業療法について理解を深め、説明できる。 その人らしさを尊重した作業療法実践について説明ができる。				
7	老年期作業療法各論④ 吉田	認知症の事例について評価計画と治療プログラムが立案できる。				
8	老年期作業療法各論⑤ 佐々木	がんを対象とする作業療法について理解を深め、説明できる。 事例に基づいたアセスメントの要点、治療について理解できる。				
9	老年期作業療法各論⑥ 佐々木	がんを対象とする作業療法について理解を深め、説明できる。 事例に基づいたアセスメントの要点、治療について理解できる。				
10	老年期作業療法各論⑦ 佐々木	呼吸器疾患を対象とする作業療法について理解を深め、説明できる。 事例に基づいたアセスメントの要点、治療について理解できる。				
11	老年期作業療法各論⑧ 佐々木	循環器疾患対象とする作業療法について理解を深め、説明できる。 事例に基づいたアセスメントの要点、治療について理解できる。				
12	老年期作業療法評価① 吉田	役割・生きがい・生活習慣をアセスメントする方法について学び実践できる。グループでアセスメントに基づいた治療計画を立案できる。				
13	老年期作業療法評価② 吉田	興味・感心や価値観をアセスメントする方法について学び実践できる。グループでアセスメントに基づいた治療計画を立案できる。				
14	老年期作業療法評価③ 吉田	取り巻く環境や生活バランスをアセスメントする方法について学び実践できる。グループでアセスメントに基づいた治療計画を立案できる。				
15	老年期作業療法のまとめ 吉田	老年期作業療法における評価および治療の要点をまとめる。事例を通して具体的な実践例を学び、理解を深めることができる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度	20%
			課題の達成度	20%		0%
【教科書】身体障害作業療法学2 内部疾患編 第1版 羊土社						
【参考書】随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループワークに備えて疾患の基礎知識や事例について事前準備が必要です。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
田中 絹代 ¹⁾ ・吉田 久美 ²⁾		田中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)肢体不自由児施設22年勤務(内JICA4年) 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	前期・木 1	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する。 ②対象疾患別に発達期領域の作業療法における具体的な「評価」と「治療的アプローチ」について理解する。						
【履修上の注意】 人間発達学, 小児科学概論の復習して取り組んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	発達障害領域の作業療法概論 田中	発達障害の定義, 対象疾患, チームアプローチについて理解する。 発達障害領域の作業療法評価の概要と流れを理解する。				
2	作業療法評価① 田中・吉田	小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し, 観察場面での評価に活用できる (ADL関連行為を中心にまとめる)				
3	作業療法評価② 田中・吉田	小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し, 観察場面での評価に活用できる(学業関連行為を中心にまとめる)				
4	作業療法評価③ 田中・吉田	発達スクリーニングテスト(遠城寺式など)を理解し, 実施できる				
5	作業療法評価④ 田中・吉田	感覚統合機能検査(J-MAP, JSI-Rなど)を理解し, 実施できる。				
6	作業療法評価⑤ 田中・吉田	小児領域のADL評価(Wee FIM,PEDIなど)を理解し, 実施できる				
7	治療各論③ 田中	神経発達学的治療アプローチを理解し, 運動面へのOT介入を実施できる。 感覚統合理論を理解し, 感覚運動・認知面へのOT介入を実施できる				
8	治療各論④ 吉田	応用行動分析とSSTを理解し, コミュニケーションや社会面へのOT介入を理解する				
9	治療各論⑤ 田中	自助具や座位保持装置等について理解し, 生活面へのOT介入を理解する 育児・家族支援や社会参加支援の原則を理解し, OT介入を理解する				
10	作業療法実践① (事例検討1) 身体障害児・知的障害	身体障害児(デュシャンヌ型筋ジストロフィー, 分娩麻痺, 二分脊椎, 先天奇形など)や知的障害児(ダウン症など)作業療法士の関わることの多い疾患・障害の特徴を踏まえ, 模擬患者を用い, 評価, 治療プログラム立案, 実施の一連の流れについて理解し, 実施することができる。(ADLを中心にプログラム立案・実施する)				
11						
12						
13						
14						
15	前期のまとめ	評価や治療の原則, 身体障害児のOT介入の実際について説明することができる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度	10%
			課題の達成度	30%		
【教科書】ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」(第2版) メディカルビュー						
【参考書】「発達障害と作業療法 基礎編」(第2版) 三輪書店, 「発達障害と作業療法 実践編」(第2版) 三輪書店						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループワークのまとめ						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
田中 絹代 ¹⁾ ・吉田 久美 ²⁾		田中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)肢体不自由児施設22年勤務(内JICA4年) 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	後期・月3 後期・金2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び、子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する。 ②対象疾患別に発達期領域の作業療法における具体的な「評価」と「治療的アプローチ」について理解する。						
【履修上の注意】 人間発達学, 小児科学概論の復習して取り組んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	前期の振り返り	発達障害作業療法の評価、治療理論について振り返り、説明できる。				
2	作業療法実践② (事例検討2) 脳性麻痺・重症心身	脳性麻痺・重症心身の特徴をふまえ、模擬患者を用い、評価、治療プログラム立案、実施の一連の流れについて理解し、実施することができる。(ADLを中心にプログラム立案・実施する)				
3						
4						
5						
6						
7	作業療法実践③ (事例検討3) 発達障害	発達障害(自閉スペクトラム症, ADHD, 学習障害など)の特徴を理解し、作業療法評価・立案・アプローチについて理解し、実施することができる。(就園・就学支援を中心にプログラム立案・実施する)				
8						
9						
10						
11						
12	グループ発表・質疑応答を通して理解を深める					
13	地域・小規模通園施設での作業療法	地域・小規模通園施設で働くために必要な評価や介入について理解する事例検討で得られた評価・実施の視点を地域・小規模施設に援用できる。				
14	特別支援教育での作業療法	特別支援教育で働くために必要な評価や介入について理解する事例検討で得られた評価・実施の視点を特別支援教育に援用できる。				
15	後期のまとめ	発達障害領域の評価、治療プログラムについて説明できる				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	70%		
			課題の達成度	30%		
【教科書】ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」(第2版)メディカルビュー						
【参考書】「発達障害と作業療法 基礎編」(第2版)三輪書店, 「発達障害と作業療法 実践編」(第2版)三輪書店						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループワークのまとめ						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学	【学年】	3
高野 真一 ¹⁾ 、岡本 宏二 ²⁾		高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院7年勤務 2)病院20年勤務			【曜日・コマ】	前期・木 3	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】						
①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	科目ガイダンス 高野	講義の進め方、事前学習の方法について説明する。 脳の解剖、中枢神経と末梢神経の機能について復習。				
2	治療学の基礎1 運動学習 高野	人が学習する基本理論と実践方法について理解する。 Keyword: 運動制御理論, 5つの理論, 運動学習三相説, 課題提示とフィードバック				
3	治療学の基礎2 行動変容 高野	日常生活上での麻痺手の使用改善に対する意義を理解する。 Keyword: 課題指向形アプローチ, CI療法, 運動学習, 神経可塑性, 目標設定				
4	治療学の基礎3 知覚再教育 高野	感覚、知覚の障害に対する治療理論を理解する。 Keyword: 知覚の役割, 感覚回復, 動作障害の改善				
5	治療学の基礎4 高野	抑制と促通に力点をおいた治療の基本理論を理解する。 Keyword: 量的・質的障害, 原始的反射の抑制, 正常機能の誘発・促通				
6	治療学の基礎5 生活行為 高野	生活行為に結びつける基本的な考え方を理解する。 Keyword: 生活行為向上マネジメント				
7	治療学演習1 岡本	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。				
8	治療学演習2 岡本	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。				
9	治療学演習3 岡本	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。				
10	治療学演習4 岡本	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。				
11	治療学各論1 脳卒中 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
12	治療学各論2 脊髄損傷 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
13	治療学各論3 神経変性疾患 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
14	治療学各論4 神経免疫疾患 高野	疾患事例を通して治療、支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
15	治療学のまとめ 高野	事例を通して治療場面の推論の立て方を学ぶ。 グループワークテーマ: クリニカルリーズニング, EBOT, 治療理論				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%		
			受講態度	20%		
【教科書】脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)、						
【参考書】業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第3版(文光堂)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布。予習課題も提示する。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
高野 真一	病院7年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月金 1	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 中枢性疾患の知識を深めるとともに、障害像を理解し、その評価・治療手段を学ぶ。神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	治療学の基礎6 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。 Keyword: 運動療法, 基本的能力訓練, 応用的能力訓練				
2	治療学の基礎7 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する。 Keyword: 運動療法, 基本的能力訓練, 応用的能力訓練				
3	治療学の基礎8 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ, アクティビティの利用について理解する。 Keyword: 作業活動, 作業分析				
4	治療学の基礎9 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ, アクティビティの利用について理解する。 Keyword: 作業活動, 作業分析				
5	治療学各論5 ポバースコンセプト	ポバースアプローチについて理解する。 Keyword: 姿勢コントロールメカニズム, 姿勢緊張, キー・ポイント・オブ・コントロール				
6	治療学各論6 ポバースコンセプト	演習 事例を通して理論について理解を深める。				
7	治療学各論7 認知運動療法	認知運動療法について理解する。 Keyword: 情報の需要表面, 5つの視点, 思考循環, 認知過程, 組み立て				
8	治療学各論8 認知運動療法	演習 事例を通して理論について理解を深める。				
9	治療学各論9 促通反復療法	促通反復療法について理解する。 Keyword: 神経路の興奮水準, 4つの視点, 原則,				
10	治療学各論10 促通反復療法	演習 事例を通して理論について理解を深める。				
11	治療学各論11 CI療法	CI療法について理解する。 Keyword: 学習性不習得, 脳の可塑性, 3つの要素, メカニズム, shaping, task practice				
12	治療学各論12 CI療法	演習 事例を通して理論について理解を深める。				
13	治療学演習1	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。				
14	治療学演習2	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。				
15	治療学演習3	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
【教科書】脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)、 【参考書】業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第3版(文光堂)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布。予習課題も提示する。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 末梢神経系作業療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学	【学年】	3	
高野 真一	病院7年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	前期・月 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 作業療法で関わる末梢神経疾患各々の疾患についての理解は重要である。本講では各疾患の特徴をふまえた作業療法支援について理解を深める。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験		
【学習目標(到達目標)】 ①末梢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。 ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	科目ガイダンス 高野		講義の進め方, 事前学習の方法について説明する。 末梢神経疾患の特徴について復習。				
2	身体機能への作業療法 高野		医療現場における作業療法について理解をする。 Keyword:				
3	治療学の基礎1 関節可動域 高野		関節可動域制限に対する基礎知識, 介入方法について理解する。 Keyword: 構造, 発生要因, 最終域感, 関節可動域練習				
4	治療学の基礎2 筋力・筋持久力 高野		筋力低下に対する基礎知識, 介入方法について理解する。 Keyword: 筋収縮の種類, 測定方法, 筋力トレーニング				
5	治療学の基礎3 作業遂行 高野		作業遂行に対する支援について理解する。 Keyword: 作業遂行における10の側面, 評価方法, 観察, 目標設定, アプローチ				
6	治療学各論1 骨折・関節障害 若林		疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
7	治療学各論1 骨折・関節障害 若林		疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断, 病態分類など, 評価項目				
8	治療学各論2 脊髄損傷 高野		疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
9	治療学各論2 脊髄損傷 高野		疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断, 病態分類など, 評価項目				
10	治療学各論3 関節リウマチ 高野		疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
11	治療学各論3 関節リウマチ 高野		疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断, 病態分類など, 評価項目				
12	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野		疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
13	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野		疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断, 病態分類など, 評価項目				
14	治療学各論5 頸椎症・腰痛症 半谷		疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する。 グループワークテーマ: 目標設定と介入プログラム				
15	治療学各論5 頸椎症・腰痛症 半谷		疾患事例を通して評価の計画について理解する。 グループワークテーマ: 医学的診断, 病態分類など, 評価項目				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%		
				受講態度	20%		
【教科書】標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版(医学書院)、作業療法士 イエロー・ノート							
【参考書】専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第3版(文光堂)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて; 事前に資料を配布。予習課題も提示する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: ハンドセラピー概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
高野 真一	病院7年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 上肢機能障害に関わる知識・技術を身につける。他の講義とも関連する内容であるため適宜他の講義の復習を行い、理解を深める事。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①上肢機能障害全般の知識とそれに対する技術を身につける。 ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ハンドセラピー総論	上肢機能の役割, 特徴について理解する. Keyword: 機能的役割, 手の用途分類, 解剖学的特徴, 手の基本原則, 知覚への役割				
2	知覚探索 - 操作器官①	知覚探索と操作に関与する上肢の特性について理解する. Keyword: 視覚探索, 外部情報探索, 到達運動, 対象操作				
3	知覚探索 - 操作器官②	片麻痺患者の知覚探索と操作への介入・支援について理解する. Keyword: 片麻痺者の特性, 安定の保証, 相互関係, 出力優位, 過剰代償, 能動性重視				
4	バランス器官としての上肢機能	姿勢調節, バランスに対する上肢の関与を理解する. Keyword: 解剖学・運動学的側面, 運動連鎖, 筋膜構造				
5	アクティビティの特性, 道具操作	アクティビティの特性について理解する. Keyword: 道具, 環境, 操作				
6	道具操作に対する活動分析	道具操作の特性, 介入方法について理解する. Keyword: ダイナミックタッチ, アクティブタッチ				
7	事例学習 脳血管疾患	事例を通して上肢機能への介入の流れを理解する.				
8	事例学習 末梢神経損傷	事例を通して上肢機能への介入の流れを理解する.				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
【教科書】作業療法における上肢機能アプローチ(三輪書店)						
【参考書】リハ実践テクニック ハンドセラピー(メジカルビュー社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomを通じて;事前に資料を配布. 予習課題も提示する.						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて 月, 木, 金の16:10以降			

授業名： 日常生活技術演習(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
吉田 久美 ¹⁾ ・薄井 俊介 ²⁾		吉田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院13年勤務 2)病院11年勤務			【曜日・コマ】	前期・水 3	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 障害の形態別に日常生活活動の特徴について理解を深める。また、その日常生活活動の問題について適切に考察できる知識と技術を身につけ治療に応用する方法を学習する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①ADL・IADL動作の分析ができる。 ②疾患や障害の特徴を踏まえた動作分析ができ、かつ治療に結びつけることができる。 ③ADL・IADLの問題について解決方法を考え、指導することができる。					論理的思考力 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 創造的思考力	
【履修上の注意】 実習や臨床に直結する動作分析と指導法を学びます。積極的に取り組んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	日常生活を評価する意義	講義のオリエンテーションにより、作業分析の考え方の復習、ADL・IADLを評価する意義、その内容や方法について理解できる。				
2	日常生活活動の評価①	日常生活活動の評価方法(FIM・BI)について理解し実際に評価できるようになる。				
3	日常生活活動の評価②	事例についてFIMおよびBIを使用し評価できる。評価の過程をグループメンバーと共有し修正を図ることができる。				
4	日常生活活動の評価③	姿勢・動作分析に必要な基本的事項が理解できる。背臥位・座位・立位の基本姿勢の定義と姿勢観察のポイントが理解できる。				
5	起居動作分析・指導①	寝返りに必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
6	起居動作分析・指導②	起き上がりに必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
7	起居動作分析・指導③	立ち上がりに必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
8	移動動作分析・指導①	歩行に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
9	移動動作分析・指導②	歩行に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
10	移乗動作分析・指導①	移乗に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
11	移乗動作分析・指導②	移乗に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
12	移乗動作分析・指導③	移乗に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
13	食事動作分析・指導	食事に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
14	トイレ動作分析・指導	トイレ動作に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
15	更衣・整容動作分析・指導	移乗に必要な動作要素を理解できる。理念型と逸脱型の理解ができる。疾患・障害による動作の特徴を理解できる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	30%	筆記試験	50%
			受講態度	20%		0%
【教科書】リハビリ現場で使える移動・移乗技術トレーニング 中央法規						
【参考書】症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作 ヒューマンプレス						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 参考書の動画を予習課題として実施します。						
【本講義に関する質問先】 担当教員						
【質問方法】 教員室にて						

授業名： 日常生活技術演習(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
吉田 久美 ¹⁾ ・薄井 俊介 ²⁾		吉田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院13年勤務 2)病院11年勤務			【曜日・コマ】	後期・火 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 障害の形態別に日常生活活動の特徴について理解を深める。また、その日常生活活動の問題について適切に考察できる知識と技術を身につけ治療に応用する方法を学習する。					【受講して得られる力】 論理的思考力 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①ADL・IADL動作の分析ができる。 ②疾患や障害の特徴を踏まえた動作分析ができ、かつ治療に結びつけることができる。 ③ADL・IADLの問題について解決方法を考え、指導することができる。						
【履修上の注意】 実習や臨床に直結する動作分析と指導法を学びます。積極的に取り組んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	生活行為向上マネジメント①	生活行為向上マネジメントの構成要素・使用方法について理解できる。評価実習Ⅰで担当した事例のアセスメント表を作成する。				
2	生活行為向上マネジメント②	生活行為向上マネジメントの構成要素・使用方法について理解できる。評価実習Ⅰ期で担当した事例のアセスメント表を作成する。				
3	指導法演習①	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてADL・IADL指導法をグループで考え、事例に説明できる資料を作成する。				
4	指導法演習②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてADL・IADL指導法をグループで考え、事例に説明できる資料を作成する。				
5	事例発表	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてADL・IADL指導法をグループで作成したものを共有しディスカッションする。				
6	事例発表	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてADL・IADL指導法をグループで作成した資料を共有しディスカッションする。				
7	整形外科事例演習①	整形外科疾患の事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
8	整形外科事例演習②	整形外科疾患の事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
9	事例発表	整形外科疾患事例についてADL・IADL指導法をグループで作成した資料を共有しディスカッションする。				
10	脊髄損傷事例演習①	脊髄損傷の事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
11	脊髄損傷事例演習②	脊髄損傷の事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
12	脊髄損傷事例演習③	脊髄損傷の事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
13	事例発表	脊髄損傷事例についてADL・IADL指導法をグループで作成した資料を共有しディスカッションする。				
14	慢性関節リウマチ事例演習①	慢性関節リウマチの事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
15	慢性関節リウマチ事例演習②	慢性関節リウマチの事例についてアセスメント表を作成し、ADL指導法を立案する。指導する内容については説明用の資料を作成する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	30%	筆記試験	50%
			受講態度	20%		0%
【教科書】リハビリ現場で使える移動・移乗技術トレーニング 中央法規						
【参考書】症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作 ヒューマンプレス						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】MTDLPおよび指導する動作について発表用スライドを作成する必要があります。						
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて	

授業名： 地域作業療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3	
吉田 久美 ¹⁾ ・岡本 宏二 ²⁾		吉田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
1)病院13年勤務 2)病院20年勤務			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 地域に根差したリハビリテーションにおける作業療法の役割を理解することができ具体的な方策を立てることができる。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 創造的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①地域のとらえ方や地域におけるリハビリテーションの歩みが理解できる。 ②地域作業療法実践の後ろ盾となっている法制度の理解ができる。 ③地域に根差した作業療法活動の具体例が理解できる。							
【履修上の注意】 本講義はactive learnig方式になり、情報収集⇒活用⇒伝達を繰り返します。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	地域作業療法総論① 田中	地域におけるリハビリテーションの定義、地域に根差したリハビリテーションの展開について理解できる。					
2	地域作業療法総論② 吉田	ライフステージに応じた地域での作業療法の関わりについて理解できる。					
3	地域作業療法の根拠① 吉田	地域作業療法を行う根拠となる関連法規(地域包括ケア制度・介護保険制度等)についてジグソー学習を行い理解することができる。					
4	地域作業療法の根拠② 吉田	地域作業療法を行う根拠となる関連法規(地域包括ケア制度・介護保険制度等)についてジグソー学習を行い理解することができる。					
5	地域作業療法の根拠 報告会 吉田	ジグソー学習した内容を共有しディスカッションする。関連法規について知識を身につけるとともに課題を明確化できる。					
6	福島県における地域資源① 吉田	福島県を県北・県中・県南・いわき・会津・相双に分割し、各地域における地域支援活動拠点について調べ理解を深めることができる。					
7	福島県における地域資源② 吉田	福島県を県北・県中・県南・いわき・会津・相双に分割し、各地域における地域支援活動拠点について調べ理解を深めることができる。					
8	福島県における地域資源③ 吉田	福島県を県北・県中・県南・いわき・会津・相双に分割し、各地域における地域支援活動拠点について調べ理解を深めることができる。					
9	福島県の地域資源 報告会 吉田	福島県内の各地域にある資源について調べた内容を報告し活用法についてディスカッションできる。					
10	福島県の地域資源 報告会 吉田	福島県内の各地域にある資源について調べた内容を報告し活用法についてディスカッションできる。					
11	雇用・就労支援について 羽川	障害者の雇用や就労を支える社会制度やシステム、具体例について理解できる。作業療法士が行うべき就労支援内容が理解できる。					
12	地域作業療法の実際① 岡本	病院から地域までの支援の流れとその中での作業療法士の役割を実例を通して学びます。					
13	地域作業療法の実際② 岡本	病院から地域までの支援の流れとその中での作業療法士の役割を実例を通して学びます。					
14	地域作業療法の実際③ 岡本	病院から地域までの支援の流れとその中での作業療法士の役割を実例を通して学びます。					
15	地域作業療法の実際④ 岡本	病院から地域までの支援の流れとその中での作業療法士の役割を実例を通して学びます。					
期末試験		評価方法	課題の達成度	80%		0%	
			受講態度	20%		0%	
【教科書】作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学 改訂第2版 MEDICAL VIEW							
【参考書】標準作業療法学 地域作業療法学 第2版							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】関連法規・地域の資源についてスライド発表となっており、スライド作成が必要。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 福祉住環境論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
薄井俊介	病院 11年勤務	薄井	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 OTの業務では、福祉機器および住環境整備への関与は必須である。対象者の生活面、社会面への適応を考えるのが、本講義の趣旨である。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①福祉住環境整備の意義・役割を理解する。 ②障害に適した住環境整備の進め方を理解する。 ③福祉住環境コーディネーター2級程度の知識の習得を目指す。						
【履修上の注意】 疾患・障害の知識、ADL関連の知識を整理して、講義に臨むこと。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		福祉住環境整備の必要性・重要性を理解し、作業療法士の業務との関連について学習する。			
2	第1章		高齢者・障害者を取り巻く社会状況 福祉住環境コーディネーターの意義			
3	第2章		障害のとらえ方と自立支援のあり方 障害の受容とリハビリテーション			
4	第3章①		高齢者に多い疾患別にみた住環境整備			
5	第3章②		障害別に見た住環境整備①			
6	第3章③		障害別に見た住環境整備②			
7	第4章		相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 福祉住環境整備にかかわる相談援助の技術			
8	第5章①		福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 福祉住環境整備の共通基本技術			
9	第5章②		福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 生活行為別福祉住環境整備の手法①			
10	第5章③		福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識 生活行為別福祉住環境整備の手法②			
11	第6章①		在宅生活における福祉用具の活用 福祉用具の意味と生活行為別の活用方法①			
12	第6章②		在宅生活における福祉用具の活用 福祉用具の意味と生活行為別の活用方法②			
13	福祉住環境コーディネーターの試験の要点①		福祉住環境コーディネーター2級の試験問題を確認・整理して、これまでの講義内容と合わせて学習する。			
14	福祉住環境コーディネーターの試験の要点②		福祉住環境コーディネーター2級の試験問題を確認・整理して、これまでの講義内容と合わせて学習する。			
15	福祉住環境コーディネーターの試験の要点③		福祉住環境コーディネーター2級の試験問題を確認・整理して、これまでの講義内容と合わせて学習する。			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	0%
				課題の達成度	20%	0%
【教科書】福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 改訂5版						
【参考書】特に定めない。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義で伝えた箇所をそれぞれ復習して、知識を深めること。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて (木曜日以外)	

授業名： 評価実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
		羽川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(270)
			【曜日・コマ】	月～金 1～4	【授業形態・単位】	実習 6
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識・技術を総合的に適用し、作業療法実践に必要なアセスメントができる。				前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①職業人(医療人)として必要な基本的行動や問題解決行動がとれる。						
②疾患や障害に適応した評価計画を立案できる。						
③実習指導者と臨床思考過程(リーズニング)を共有できる。						
【履修上の注意】		実習指導者との報連相、担当教員との報連相を欠かさないこと				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	医療施設及び福祉施設実習	対象者の情報収集および評価計画の立案ができる。				
2	医療施設及び福祉施設実習	対象者の評価を安全かつ正確に実施できる。 必要な情報を他職種から聴取できる。				
3	医療施設及び福祉施設実習	評価のまとめとしてサマリーを作成できる。 サマリー作成の過程で臨床思考過程(リーズニング)を体験する。				
4	医療施設及び福祉施設実習	対象者の情報収集および評価計画の立案ができる。				
5	医療施設及び福祉施設実習	対象者の評価を安全かつ正確に実施できる。 必要な情報を他職種から聴取できる。				
6	医療施設及び福祉施設実習	評価のまとめとしてレジュメを作成できる。 レジュメ作成の過程で臨床思考過程(リーズニング)を体験する。				
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験		評価方法	筆記試験	20%	OSCE	20%
			発表会の結果	20%	実習評価	40%
【教科書】OT臨地実習ルートマップ						
【参考書】随時紹介						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習指導者をロールモデルに主体的に学ぶこと						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡 ot-department@k-tohto.ac.jp		